

平成 27 年度第 2 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会
議事録

1. 日時：平成 28 年 1 月 25 日（月） 14:00～15:20

2. 場所：情報科学技術協会会議室

3. 出席者：委員

永田 治樹	国立大学法人筑波大学名誉教授(SC8 リーダー)
桑原 芳哉	学校法人尚絅大学
鈴木 加奈子	学校法人立教大学
中井 恵久	国立国会図書館
小泉 史子	公益社団法人日本図書館協会
菅野 朋子	国立大学法人東京大学
戸田 あきら	学校法人文教大学学園
有田 寛之	独立行政法人国立科学博物館
事務局 光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会
ワザハ - 木元 和宏	一般財団法人日本規格協会

4. 配布資料：『平成 27 年度第 2 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会』

（資料 1）「平成 27 年度実施計画書について」

（資料 2）「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化調査報告」

（資料 3）「デジタルアーカイブ利活用のための記述に関する標準化委員会(WG1)の発足について」

（資料 4）「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子について」

（資料 5）「平成 27 年度 ISO/TC46/SC8 投票報告」

（資料 6）「2015 年 ISO/TC46/SC8 ウィーン会議報告」

（資料 7）「2016 年 ISO/TC46 ニュージーランド総会（2016/5/9-13）について」

5. 議事：

永田リーダーにより議事を進行し、各資料に基づき説明があった。

5-1) 議題 1 「平成 27 年度実施計画書について」(資料 1)、議題 2 「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化調査報告」(資料 2)、議題 3 「デジタルアーカイブ利活用のための記述に関する標準化委員会(WG1)の発足について」(資料 3) 及び議題 4 「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子について」(資料 4)

資料に基づき、事務局からの説明及び永田リーダーからの補足があった。

・ ISO/TC46 の今年度の活動には国際提案が求められており、2016 年 1 月にデジタルアー

カイブ利活用のための記述に関する標準化委員会（WG1）を立ち上げた。

- ・WG1 による提案 ”Description of copyright specification in digital archives for libraries and related organization” は、利用者がデジタルアーカイブを安心して活用できるように二次利用や権利表示等について整理するのがねらいである。SC8 としても応援してゆきたい。
- ・デジタルアーカイブは和製英語であり、どのように表現するか、といった課題もある。
- ・国際図書館資料識別子（ISO 20427）は、各機関の所蔵物に関する ID を定めるもので、WD が完成し CD 投票待ちの段階である。

5-2) 議題 5 「平成 27 年度 ISO/TC46/SC8 投票報告」(資料 5)

- ・ISO/DIS 18461 : ”International museum statistics” はほぼ完成し、日本国内においては関連団体等への広報が今後必要となる。
- ・ISO 9230:2007 (Ed2, vers2) : ”Information and documentation – Determination of price indexes for print and electronic media purchased by libraries” は反対もあったが多くの国が confirm している。日本国内では利用されておらず、どう活用するかが課題。
- ・ISO/NP 21246 : “Key indicators for museums” は、図書館における performance indicator に相当し、博物館国際統計をベースにした範囲で検討が進むと思われる。
- ・ISO/NP 21248 : ”Quality assessment for national libraries” は、約 10 年前に TR が出ている国立図書館の品質管理について、規格にしようというもの。

5-3) 議題 6 「2015 年 ISO/TC46/SC8 ウィーン会議報告」(資料 6)

- ・SC8 はアクティブなメンバーがヨーロッパに集中しており、TC46 総会とは別に毎年 10 月頃にヨーロッパで会議を行っている。
- ・すべての WG の会議が開催された。WG2 では一昨年から議長（convenor）が交代しており、引き続き次の改正のための議論があった。大学図書館、公共図書館、学校図書館の連合図書館（combined library）という用語の定義、デジタル情報の統計をどうするか、book a librarian で展開される user consultation に関する概念の整理などである
- ・WG4 では各国からの話題提供と課題の検討があった。より使いやすくするための指標の例示、ベンチマーク作りという意見があったほか、Open library 等の動きに合わせ開館時間より職員配置の割合が重要ではないかという意見があった。日本国内の問題としては、予約の概念が ISO と異なることや、指定管理者制度などアウトソーシングの進展により ISO の基準に合わせるだけでは職員の把握ができないという点がある。
- ・WG10 ではインパクトを丁寧にアセスメントするよう改正したいという意見、従来の仮説検証型のデータ収集及び分析だけでなくアナリティクスを用いたウェブのデータの分析といった考え方が出ていた。
- ・総会では各 WG の報告があり、上記 WG 以外では WG7 の立ち上げ、WG11 では DIS コメントを組み込んだ ISO18461 の出版に向けた準備及び“Key indicators for museums”の

立ち上げが報告された。WG12 はドラフトがまだ見えておらず、難しい状況にある模様。
・ SC8 の事務局がドイツの DIN から韓国の KATS (技術標準院) に変わった。データは引き続き DIN のサーバにある。

5-4) 議題 7 「 2016 年 ICO/TC46 ニュージーランド総会 (2016/5/9-13) について 」 (資料 7)
・ 事務局よりプログラムの案内があった。参加者については今後調整を行う。

5-5) その他

- ・ JIS 化について、改正は大きな問題はないが、新規については経済産業省からメリットとしてどの程度の利用があるか、関係者がメンバーにそろっているかを審査される。改正については 1 年前に調査が来るが、ISO の次の改正を待つとして 1 回見送ることも可能。
- ・ JIS 化については、日本規格協会が年 3 回実施する公募に応募し採択されることで多少の金銭的支援が得られる。
- ・ 国際博物館統計は規格が出た時点で関係団体への公開が必要であり、JIS 化にあたっては博物館サイドからの支援が必要。
- ・ WG12 のドラフトが出てきたら必要なメンバーの支援をお願いしたい。

以上